

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和3年8月23日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670102690
法人名	有限会社 ライフサポート
事業所名	グループホーム たんぼぼの里
所在地	鹿児島県鹿児島市下福元町6718番地 (電話) 099-210-8812
自己評価作成日	令和3年7月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和3年8月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・鹿児島市の南部の位置にあり、観光名所(物産館等)が点在しています。少し離れた山手には動物園があります。

・理念には「利用者の安心、安全を獲得し、あなたにあえてよかったと言えるサービス・・・」とあり、私達は認知症のご利用者様の支援に日々精進しております。

・入居者も重度化し、キーパーソンの家族も高齢になる中、利用者の状況に応じたサービスを提供できるように努力しております。本人・家族の意向に添えるように、代表者、行政、地域の方等と連携を図り、サービスの質の向上に努めています。

・コロナ禍で地域の方との交流が減ってきております。ワクチン接種も希望者には接種できましたので、以前の様な生活ができるよう支援してまいります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・当事業所は、有料老人ホームやデイサービス事業所に隣接しており、職員間の協力関係が築かれている。

・コロナ禍の為、地域行事や事業所行事の中止などにより、地域との交流は困難な状況である。運営推進会議については委員の意見を受け書面開催が主となっているが、年2回は対面での実施を計画し地域の情報を得たり意見交換を行う機会を確保できるよう努めている。

・家族の面会も制限されている為、電話での交流や事業所から「たんぼぼの里便り」の送付により利用者の近況を報告し、利用者と家族との関係が途切れないよう支援に取り組んでいる。

・代表者は技能実習生やシルバー人材センターからの派遣を受け入れて職員確保に努めている。管理者は、外部研修参加が困難な状況から内部研修の強化や業務改善に取り組み、ユニット独自の運営や事業所全体のレベルアップを図っている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	利用者の安心、安全を、満足を掲げた理念を玄関や事務所に掲示しており、スタッフ会時には理念を話題にしております。ユニット独自のメッセージも掲示し、ケアの質向上につなげています。	事業所独自の理念を玄関や事務所に掲示し、毎朝の申し送り時に唱和している。スタッフ会議時に理念の確認とケアの振り返りを行ない、実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で交流が少なくなってきましたが、地域とのつきあいは細く長く続き、地域の情報は、運営推進会議等の参加者等から情報提供を受けている。	コロナ感染防止の為、地域行事及び事業所夏祭り等の行事を自粛し、地域との交流は困難な状況である。運営推進会議委員との情報交換で、相互に地域及び事業所の状況把握に努めている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	2ヶ月毎の運営推進会議では家族代表や行政職員、民生委員、地域代表の方も参加され、主に事業所の活動内容や利用者の身体状況等の確認報告を行っている。緊急時の対応についても協力をお願いしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>コロナ禍で活動内容が少なくなっておりますが、今、出来ている事を報告しております。外部評価への取り組みはスタッフ全員で行っています。</p>	<p>2ヶ月毎に運営推進会議を開催し、対面で2回、他は書面で資料等を送付している。事業所の近況報告や利用者の状況報告を行い、意見交換をしている。コロナ感染防止の為の意見が多く、地域の情報を得る機会でもあり、可能な限り開催する計画である。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>市の保護課には、ご利用者の状況に応じた、良いサービス提供に繋がるように積極的に相談し協力をいただいている。苦情についても相談している。</p>	<p>市の担当者とは、窓口に出向いて事業所の取り組みや相談・苦情への助言を得たり、コロナ感染予防や介護保険情報を収集し、積極的に連携を図っている。市主催のズーム研修・会議にも参加している。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>月初めの勉強会では誰でも解りやすい身体拘束についてのマニュアルを用いたり、事例検討も行っている。きつい言葉や表情を含めて身体拘束禁止を具体的行為について研修している。日中は玄関は施錠せずに職員間の連携で自由な暮らしを支援している。</p>	<p>指針が有り、委員会を3ヶ月毎に開催し、身体拘束について事例をあげて研修している。不適切な言葉かけは管理者が気付いた時に注意を促している。日中は玄関の施錠はせず外に出たい利用者には職員が同行し、行動の制限やスピーチロックの無い支援を行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ユニット毎の研修・勉強会を行い、全員が学ぶ機会を設け、理解を深めている。事業所内でのケアを相互確認し、人的環境を整えている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護や成年後見制度についての研修は外部研修が予定できないので、内部研修を検討している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約締結時には、入居者及び家族が疑問点などを質問できるよう雰囲気をつくっている。解約や改正等の際もその都度十分な説明を紙面と口頭でも行うようにし、理解していただけるようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日常の会話から意見や要望を聞きだしている。入浴時などのリラックスタイムに、思いなどを傾聴している。家族とは面会時や運営推進会議で意見交換を行い運営に生かしている。	本人からは日常の会話の中で要望等を聞いている。家族には、来訪時や電話で意見を聞き、栄養補助食品なども要望に沿って提供している。転倒に注意して欲しいとの要望に、高齢による身体機能低下や重度化等、利用者の心身の変化についての理解を得て、転倒防止に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>管理者は日頃より話しやすい雰囲気作りに努め、職員の悩みや業務に関する意見、要望等を聞き、代表者と相談し、業務改善やサービス向上につなげている。</p>	<p>管理者は、意見が言いやすいように日頃からコミュニケーションを大切にし、朝の申し送り時や毎月の会議時に職員の意見等を聞く機会を設けている。入浴介助時の脱衣室と浴室における職員間の分担と連携について検討し、業務改善に繋げた事例がある。個別相談は管理者が対応している。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>管理者は個人の目標や業務に関する悩み等を理解するよう努め、時間を設けて、適切なアドバイスや評価が出来るよう努力している。代表者は管理者からの職員の勤務状況など把握し、改善に努めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員が仕事に意欲が持てるようにコミュニケーションを図りながら、資格取得の支援を実施、ケアの質向上になっている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同一法人の研修の請け、ネットワークを形成し互いのサービス向上を目指している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者が入居前にご家族や周囲から得た情報を基に、本人の「思い」を重視したケアプランの作成し実践できるよう努めている。ご本人の心配事、要望を聞き不安を軽減し、落ち着いた生活が送れるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と事前面接の機会を持ち、本人・家族の話を傾聴し、これまでの経緯と、不安や要望を聞き、双方の信頼関係の形成に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族が今、何を必要としているかを聞き、どのような支援が必要なかを判断し、よりよいサービスができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は介護者であるが、共同生活者としてお互い役割を持ち、多くの事を共有し、喜怒哀楽共にしていることを念頭に置きながら、一緒に過ごせる関係をつくっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今までと異なった環境での生活への不安を理解し、家族とともに支え、「離された」ということではなく、ケアプランの中に家族としての役割を含めて、これまでの生活、家族関係が継続できる様にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染予防の為、面会を禁止しております。電話での対応が多いですが、入居以前の間関係の維持のため、前庭での短時間の会話は緩和しています。現在は家族以外の訪問者は稀となっている。	コロナ禍の為、面会を自粛し、家族との電話等による交流を主に支援している。事業所からは家族に便りを毎月送付し、利用者の近況を報告。家族との関係が途切れないように努めている。面会は玄関の外で対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングでの座る位置は、症状に応じて座れるように工夫し、気が合う方と反発し合う方等、必要に応じて職員が間に入ることでトラブル発生を防ぐようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移った場合は、家族にいつでも遠慮なく立ち寄って頂き交流を持ち家族の不安や困りごとの相談に対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活の中で、ご利用者・ご家族の希望や意向の把握に努めている。意思疎通が困難なご利用者は、家族から情報を聞き取り、日常の生活の様子を職員で話し合い、その人らしく生活ができるよう支援している。	日常の会話の中で食べたい物等の希望を聞いたり、入浴時や夕食後にゆっくり話を聞くようにし、本人の思いの把握に努めている。表質が困難な場合は、家族等の情報を参考に、職員で話し合い本人中心の支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活環境やサービス利用の経過、生活習慣、家族などからの情報提供などから生活歴を把握し、支援に繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	情報提供の確認を業務前に行うことで現状の経過の確認をしている。また職員同士の情報共有をする為、朝夕の申し送りを詳細にしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の意向を確認し、担当者会議で話し合い、月初めのスタッフ会議においてカンファレンスを行ない、問題点の検討を行い、3ヶ月毎にモニタリングを実施し、状況変化が応じた時はその都度介護計画を見直している。	本人及び家族の希望を基に担当者会議で検討し、介護計画を作成している。モニタリングを3ヶ月毎に実施し、6ヶ月毎及び状況変化時に見直して、現状に即した介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者の日々の変化や状態、職員の気づきをサービス記録、生活日誌に記載し職員間で情報を確認している。定期的なミーティングにおいて気づきを話し合い介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ケアプランは各入居者の希望や思いなどを受け入れ、状態の変化にも即したものを作成し、ケアは個人に対応するように様に努めている。個別の希望にも出来る限り、迅速に対応し、満足がいただけるようなケアに取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため出来ていないが、地域の資源は把握している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望するかかりつけ医の受診を支援し、訪問診療を受けている。利用者の病歴等を把握し、緊急時は、主治医と連携を取りながら適切に対応している。	契約時に本人及び家族の希望するかかりつけ医を確認し、他科受診も含めて事業所で受診を支援している。24時間対応の訪問診療もある。緊急時は、主治医との連携等により対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当事業所の正看護師により医療連携が確保されており、状態変化等に随時相談をし、速やかに受診等ができるよう支援している。看護師が日常的に健康状態の確認の記録を行うなど、利用者の健康状態のチェックをしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	急な入院にも、医療機関に対しサマリーなどにより情報を提供している。退院に向けては医療機関の相談員係者との連携をとり、情報を得て早期に退院出来るようにしている。退院後もご本人・ご家族の不安を軽減できるように話し合い、安心して生活して頂けるよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、重度化や看取りに関する指針を説明し同意を得ている。状況変化に伴い、その都度ご本人やご家族の意向を確認し、主治医・関係者と連携して方向性を同じにして取り組んでいる。ご家族・ご家族の不安の軽減に繋げている。	契約時に重度化等の場合の対応について指針で説明し、同意書をもっている。状況変化時には主治医から家族へ説明し、家族の意向を確認している。看取り介護の実績がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	常日頃、事故防止や緊急時の対応等については確認し合い、利用者の急変や事故発生時に迅速に対応できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>災害緊急通報設備やスプリンクラー・消火器など災害器具は開所時に設置し、点検をしている。年6回実施、内2回は火災想定での訓練、ご利用の状態を想定し行なっている。年2回の総合訓練は、地域の方々へ参加協力も得ている。食料の備蓄もしている。</p>	<p>年2回の総合避難訓練及び2ヶ月毎に自主訓練を実施し、年1回消防署の立ち会いがある。訓練時は事前に近隣へチラシを配ったりしていたがコロナ禍の為、自粛している。非常用の備蓄は、3日分の水や缶詰・米・乾麺等の食料とカセットコンロ・救急箱・タオル等の救急用品を準備している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重とプライバシーの確保については、マニュアルにて、研修をし、ケアへの反映させている。居室への入室、排泄・入浴・更衣等のケアに際しては、尊厳やプライドを損ねるような言葉かけや対応を行わないように十分配慮している。	研修を実施し、入室時のノックや排泄・入浴・更衣介助時の誇りやプライバシーを損ねない声掛け・対応に活かしている。申し送りは利用者に内容が聞き取れないよう事務室で行い、尊厳と権利を守り、プライバシー確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションが困難な方が増えているが、自己決定の場をつくるようにしている。日常会話の中での言葉や表情などから本人の希望や思いを汲み取り選択肢を提示することもある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度決められた1日の流れはあるが、事業所の決まり事ではなく、ご本人の意向を大切に、ご本人のしたいこと、出来る事の希望に沿えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	毎朝整容介助を行なっている。重度化もあり、自分で選択が困難な方は選択肢などをお願いしている。訪問カットでも髪の長さ等を聞いてもらっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の野菜を食材に使ったり、利用者の好みや嗜好に配慮した献立を作っている。利用者の力量に応じて食事の準備や下ごしらえ・後片づけを職員と一緒にしたりしている。	調理担当職員が利用者の好みを聞いて献立を作成し、個々に応じた食事形態で提供しており、利用者も一緒に下ごしらえや片付けをしている。食事を楽しめるよう行事食や誕生日のおやつ・仕出し弁当等で工夫している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師指示のある方は、指示にて提供している。歯茎の調子の悪い方には、ミキサー食などを準備している。食事・水分摂取量をサービス記録に記入し、必要時は医師に伝えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご利用者の状態に合わせ、口腔ケアの見守り、介助をしている。また、治療が必要なときには、協力歯科医院に連絡をして、往診をお願いしている。夜間は、義歯消毒している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	快適な排泄に向けて、昼夜、個人の排泄パターンから、声かけや手引き誘導等で、トイレで排泄維持に努めている。夜間のみポータブルトイレ使用の方もいる。排泄パターン等を把握し活用している。	個々の排泄パターンに応じて声掛けや手引きを行い、昼夜とも立位の取れる利用者はトイレでの排泄を基本に支援している。タイミングをみて声かけをして周りにできるだけ気づかれないように誘導している。身体状況等を考慮して、夜間のみオムツやポータブルトイレを使用する利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の水分摂取には注意を払い、繊維の多い食材での調理に努めている。運動できる方は廊下歩行をお願いしたり、手引き歩行を行っている。昼・夕食前に誤嚥予防の運動している。服薬時にも水を多く摂っていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴は基本的に週3回であるが、希望に添った入浴ができるようにしている。入浴を拒む方には声かけはするが無理強いせず、足浴など柔軟に対応している。シャワー浴や清拭も行なっている。	週3回の入浴を実施し、利用者の希望を聞いて柔軟に対応している。清潔保持を確保する為にシャワー浴や足浴・清拭を行い、気持ち良く過ごせるようにしている。入浴を嫌がる場合は職員を交代したり時間をずらしたり工夫をし、無理強いせず、翌日に変更している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不眠時は、話をお聞き、飲み物をすすめたり落ち着いてから、就寝を促している。1人ひとり、状態に合わせて休息がとれるよう、昼寝を促してはいるが、決まり事を出来る限りなくしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報は、職員が閲覧できるようにしてある。受診記録帳は必読し、疾患に対しての薬を理解し、症状の変化に注意している。毎日のバイタルの変化に注意し、極端な変化が認められた場合には、病院と連携対応をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者の重度化で役割が困難になっているが、自分の存在を感じていただくよう洗濯物たたみ、衣類が自分の物と認識していただくなどに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気の良い日には園庭で花・草で季節を感じていただいたり、散歩や外気浴を楽しめるようにしている。季節の花見なども楽しんでもらっている。不期的に外出に出掛けたりしている。(現在自粛中)	天気の良い日は庭や近隣での散歩をしている。コロナ禍の為、数人で、花見や公園のバラ見物に出かけている。部屋の中に閉じこもらないように季節を感じストレスを発散できるようにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出した時に、個人の能力にもよるが、買い物でお金を使い社会参加もするが、現在は対象者はいない。家族に、出来るだけ現金は所持しないようお願いし協力を頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	要望があれば自由に電話などしていただく支援をしている。ご家族が訪問することほとんどなく、電話を掛ける認識が低く、困難であり、かける希望の方は少ない。希望があれば家族等と連絡が取れるようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁などに季節感のあるタペストリー掛け、玄関に季節の花などで居心地の良い空間づくりを心掛けている。ご利用者の声を聞き、温度計、湿度計などの数値にても十分に配慮している。	ホールも広く明るい雰囲気、エアコンで適度な室内環境に調節している。感染症対策の為に換気を2時間おきに実施している。季節の花や手作り作品で季節を感じてもらえるようにしている。キッチンも見える位置にあり利用者は食事ができるまでの匂いや音を感じて楽しんでい。畳スペースやソファがあり、利用者は好みの場所で寛いでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>車椅子使用者が多くなったり、食事介助が必要な方等の関係で食事時はその時の状況の席になっている。基本はその方の能力考慮し、楽しく食事ができるよう利用者同士の相性を考えた席にしている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>契約時に部屋はご自由にお使い頂くよう説明している。使い慣れた物、写真などを置いて頂くことで、心地よく過ごして頂き、安全面にも配慮している。</p>	<p>居室にはベッド・ダンス・エアコンが有り、利用者は自宅等で使用していたテレビや寝具・仏壇・写真・化粧道具を持ち込んで、安心して過ごせる部屋作りをしている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>2階づくりのユニットなので、2階からの転落には十分に配慮している。本人のできる事を重視し、安全な生活が送れるようしている。廊下、トイレや浴室には手すりを設置し、転倒防止につながる。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
		○	3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない